

情報系システム基盤の全面刷新について

名古屋銀行（頭取 中村 昌弘）は、2 つのソフトウェアを東海地区（愛知・岐阜・三重）の企業で初めて使用し、情報系システム基盤の全面刷新を行い、運用を開始しました。最新 IT 技術の活用を通じて、お客さまにより充実したサービスの提供と業務の合理化、コスト削減を実現してまいります。

記

1. 概要

①CRM システム(*1)の基盤更改

(Microsoft SQL Server 2012 を使用したデータベースシステム構築)

営業活動や取引情報などの業務データを一元管理するシステム(CRM システム)の中心となるデータベースソフトに Microsoft SQL Server2012 を採用。大幅に向上した処理性能による大量のデータ処理(*2)の短時間化や、安定性の高いシステム構築が可能となります。

これにより高い安定性を保持した上で、蓄積されている日々の膨大な業務データを活用できるよう分析を行うことが可能となり、お客さま一人ひとりへのより最適なサービス提供やご要望に応じてまいります。

②サーバ仮想化(*3)技術によるシステムサーバ集約

(Microsoft Windows Server 2012 Hyper-V を使用したシステムサーバ集約)

Microsoft Windows Server 2012 Hyper-V を活用し、業務システムサーバ 180 台のうち 50 台を仮想サーバに集約移行。これによりサーバ台数、運用管理コストを大幅に削減し、今後 5 年間でコンピュータシステムの導入・維持・管理などに掛かる総コストを半減させる計画としております。また、各種システムの構築期間が短縮され、迅速なサービス提供が可能となります。

2. 今後の予定

当行では、BPR 戦略～変わる！変える！生まれ変わる！～のもと、多様化するお客さまのニーズや経済環境に柔軟に対応できるよう業務の変革に取り組んでおります。支店窓口や渉外はもちろんのこと、インターネットバンキングなどの各チャネルで、今回新しくなった情報系システム基盤を活用し、さらなるサービス向上に取り組みながら、地域トップバンクを目指してまいります。

(用語解説)

*1 CRM(Customer Relationship Management)

顧客の購入・利用履歴だけでなく、意見なども含めた企業とのあらゆる接点での情報を統合管理し、顧客へ最適なサービスを提供、顧客維持率をあげ長期的な収益を高めようとする考え方、手法。

*2 大量データ処理

過去 5 年分の業務データ、約 1 億レコードの抽出に、従来は 30 分ほど要したが、当ソフトウェア導入により約 7 秒で完了。近年、ビッグデータと言われ、活用により業務運営の効率化や新産業の創出などが期待されている。

*3 サーバ仮想化

ハードウェアリソース(CPU、メモリなど)を、物理的な構成にとらわれずに統合・分割できる技術。「1 台のサーバで 1 つの OS」が稼動していたものが、「1 台のサーバで複数の OS」を稼動させることが可能になる。